

ISSN 0289-8144

たきいん 2

FEB.
2000



CONTENTS

New Face	アカカンガルー	長瀬健二郎	②
	動物とわたし	森田りえ子	③
カバーウォッチング	エミュー	長瀬健二郎	
エンゾリスの会	里山をつくろうプロジェクトで売出し中!	伊藤育子	④
	下北半島に北限のニホンザルを訪ねる	大野尊信	⑥
	グラフZOO 下北のニホンザル	大野尊信	⑧
キーバースアイ	ゾウの話「長い熊手の使い道」「ゾウの腹時計」	油家謙二	⑩
	ZOO DIARY	高見一利	⑪
	ZOO INFO	坂本全	
		松岡秀和	



New Face

アカカンガルー

(フクロネズミ目 カンガルー科)

かつては10頭近くも飼われていた時期があったのですが、さまざまな事情で2頭にまで減ってしまいました。そこで多数飼育しておられる愛媛県とベ動物園にお願いして、オス、メス各1頭をいただきました。早く以前のようにぎやかな群れに戻って欲しいものです。(撮影・文：長瀬健二郎)

動物とわたし

-どうぶつエッセイ-

森田りえ子 さん

(日本画家)



私はネコ派

世間では「あなたは犬派それとも猫派？」という質問がよくあります。私は迷わず「猫」と答えるでしょう。今では動物は飼っていませんが、子供の頃は無類の猫好きで、色々な猫と共に暮らしていました。人の言葉より猫語の方が得意で、猫とばかり遊んでいました。

なぜ猫が好きかというと、第一に「ネコ」という単語の響きがいい。イヌより可愛い感じがします。タヌキやキツネ、イタチなんかよりずっと愛くるしい発声だと思います。それから体の部分では足の裏が一番好きです。私たちはそれを「肉球(にくきゅう)」と呼んでいます。猫によって肉球の色はさまざまです。白猫(しろねこ)や虎猫(とらねこ)はピンク色です。三毛猫などはピンクと黒のプチです。また私は長く飼っていた黒っぽい虎猫—これを俗に雉猫(きじねこ)と呼ぶ—は黒でした。烏猫(からすねこ)(黒猫)も同じです。普通、猫はこれを触られることを嫌がり、時には爪を立てて逃げ出そうともがきます。でも私の雉猫は仲がとても良かったの

でその柔らかな肉球を自由に触らせてくれました。時折、可愛さ余ってギュッと強く握りしめても我慢していました。

後年読んだ梶井基次郎の小説の中に、暑い日に猫の足の裏を脛(まぶた)の上に当てて縁側に寝そべると冷んやりと、とても気持ちがよいというような件(くだり)がありました。勿論私はどうの昔からそんな事はしょっちゅうしていました。猫の毛の柔らかなのも好きです。鼻を近づけるとくすぐったく、草原のような匂いがします。絶えず優雅に動く神経の行き届いた長い尾も大好きでした。

ある日引越した家からその猫は突然姿を消しました。私はずっと探し続け、泣き続けました。夜中に美しい声を聞いたようで、よくとび起きました。それ以来、猫を飼うのはやめました。

最近では西洋種も増え、ペットショップのウインドーには高級な仔猫が並んでいます。でも私は今も「オニヤン」と名付けた昔ながらの雉猫が一番好きです。

(もりた りえこ)



エミュー

ヒクイドリ目 エミュー科 *Dromaius novaehollandiae*

Cover Watching

エミューはダチョウと同じように飛ばなくなった地上性の鳥です。頭までの高さは1.5mから1.8mとほとんど人と同じ位です。あまり人を恐れないので、撮影の間もすぐそばまで寄ってきました。あまりそばに来過ぎて写真を撮れなくなる程で、逃げ回りながらの撮影となりました。(撮影・文：長瀬健二郎)

里山をつくろうプロジェクトで売り出し中！

～エゾリスの会って、
こんなこともやってます～



エゾリスの会は、エゾリスなどの野生の生きものたちとともに暮らしているまちづくりを考えようという市民が集まって1986年4月に発足しました。現在、会員は約80名です。北海道十勝平野のほぼ中央に位置する帯広市（人口約17万人）を中心に、自然観察会やエゾリスなどの生息状況調査を実施するとともに、エゾリスの写真展や写真集の出版を通じて足元の自然について知ってもらうイベントや自然豊かなまちづくりへの提言



かんじきを履いての雪上足跡かんさつ会

などの活動も行っているグループです。

年間3回ほど実施している自然観察会は、身近な自然環境や野生の生きものたちとの出会いを楽しんでもらうことを目指しています。毎回、会員だけでなく一般市民の方も対象に行っていますが、エゾリスのかんさつ会はもちろんのこと、夜のモモンガやコウモリのウォッチングや雪上の動物の足跡探しなどが好評です。

帯広市内の小動物の生息状況調査は、自然観察会で生きものたちに関心を持たれた一般市民の方々にもお手伝いいただいて実施しています。会が発足した当初は、市街地の中央に位置する緑ヶ丘公園（約42ha）内のエゾリスの生息状況を中心に調査していましたが、現在は市街地を囲むように計画されている帯広の森（約406haの都市公園）の小動物の生息状況の把握に力を入れている。

す。調査の結果から周辺の急激な都市化などの影響により、帯広の森予定地内ではキタキツネが増加し、エゾユキウサギがほぼ絶滅していることなどがわかってきました。これらの調査結果に基づいて動物たちの生息環境としても豊かな森づくりとなるよう、「帯広の森」の計画への提言も行っています。

一昨年からは、観察したり調査したりという自然を見るだけの活動から一歩踏み出して、環境管理作業も自分たちの手でやってみようということで、「帯広の森」の一角をフィールドに“里山をつくろうプロジェクト”という活動を立ち上げました。

北海道ではあまり馴染みのない言葉ですが、日本の多くの農村集落には少し前まで田んぼや畑を囲むように“里山”と言われる生活に密着した雑木林がありました。燃料の薪や堆肥にする落ち葉を集めたり、木材やホダ木を得たり、季節の味覚を楽しんだりしてきた生活に密着した二次林です。また、里山の自然の豊かさ（多様性）は人が手を入れ、明るい落葉広葉樹林を維持することによって保たれてきたものです。

十勝平野は明治時代から始まった開拓の手が入る以前は、カシワ（ブナ科コナラ属；ドングリの実る木の1種）



おぼつかない腰つきで初めてのチェーン・ソー

の原生林に覆われていたそうです。「帯広の森」の計画は、100年前からの開拓で伐り開いてきた場所に100年かけてふるさとの森を再生することを目指しています。しかし、植樹はしたものの、その後の手

入れの遅れが目立っています。そこでプロジェクトでは、カシワ林（の生態系）の復元を助けるため、里山の管理作業をお手本に必要な間伐や草刈りなどを始めました。

重労働ではありますが、この木を伐り倒したり、ボウボウに伸びた草を刈る作業が思いの外、楽しいのです。自分の背丈の何倍もある木を大きな鋸やチェーン・ソーで伐り倒す時の緊張感や達成感は現代の普段の生活では味わえない感覚なのではないでしょうか。

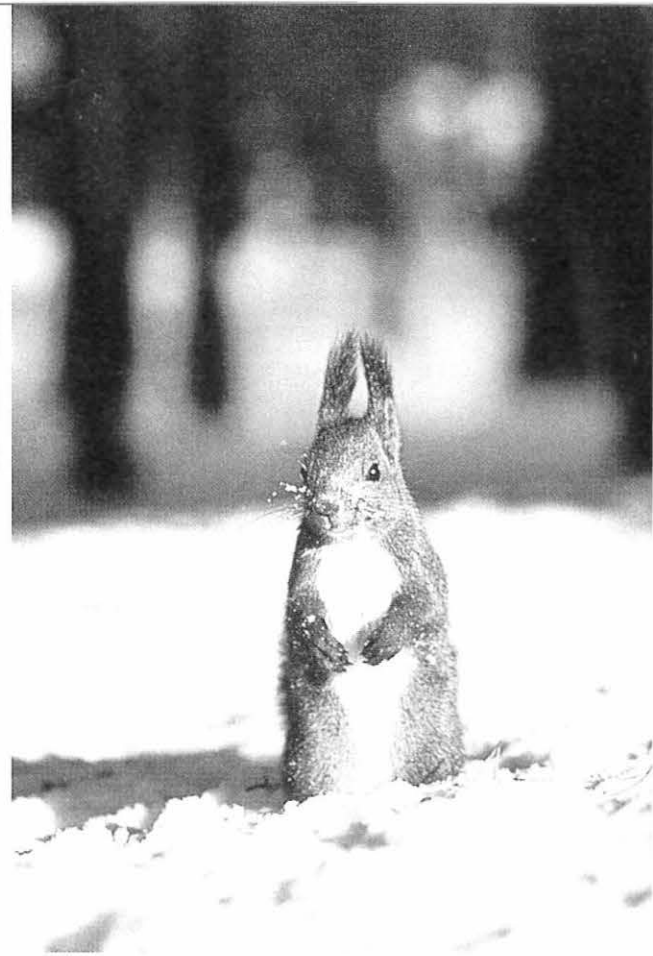
ただ伐るだけでも面白いのですが、2年目の昨年は、作業後の発生材を使って草木染めや燻製づくり、炭焼きなどもやってみました。夏には林床植生の再生を妨げ繁茂しているオオアワダチソウ（セイタカアワダチソウの仲間）を草刈りした後、その花を煮出して染めに挑戦しました。初心者ばかりだったのですが、鮮やかな黄色にキレイに染まって大満足の出来でした。秋には間伐後に、伏せ焼きという窯のいらぬ方法で炭焼きをやりました。「たくさんできたらどうしよう?！」なんて皮算用していたのですが、こちらはチョッと失敗…。半分を灰



オオアワダチソウで染めに挑戦！

にしてしまいました。それでも先月には、その炭火で料理をして新年会を催し、「今年は上等の炭を焼こう!」とお互いに気合いを入れたところでした。

雪化粧のエゾリス（撮影／川島則之）



このように“里山をつくろうプロジェクト”では、ふるさとの森の再生を手助けしつつ、自然とのつきあい方や楽しみ方も学んでいきたいと考えています。

会の名称に動物の名前が入っていると、その動物の愛護・保護を目的としている団体だと思われるがちですが、私たちにとってエゾリスは、あくまでも活動のシンボルです。

100年前の十勝平野がカシワの原生林だったことを考えると、その環境を象徴する動物としてはエゾリスよりエゾシマリスの方がふさわしい動物です。しかし、市街地とその周辺では既にほとんど見られなくなってしまいました。エゾリスの会が望むまちづくりが実現し、更なる飛躍のために会の名称をエゾリスの会からシマリスの会に変更できる日を1日も早く迎えたいものです。

そのためにも、今年も自然観察会も調査活動も環境管理作業もと欲張って活動していきたいと思えます。

エゾリスの会会員 伊藤育子

二ホンザルの棲む場所を訪ねたい。観察したい。同じ地で同じ風に吹かれていたい。

そんな気持ちで各地の二ホンザルを訪ね歩いています。中でも冬の下北半島に北限のサルを訪ねることは、私にとって大切な忘れ物探しの意味を持っていました。

最北の地で寒さを耐え忍んでいるような姿は見る人には特別な情を与えるようですが、しかしじっくり見てみると、下北のサルは長い時間を経て見事にまで寒さに適応した進化をしています。たとえば、一本一本の体毛は細くなり面積当たりの本数が暖かい所に住むサルより多くなっているなどです。ですから寒い所で云々、と思うのは端的な見方にすぎません。前回訪れた時は92年6月のことでしたので、ちょうど換毛期に当たり、いわゆる夏毛であったため、今回目にしたようなふさふさとした柔らかい毛並みではありませんでした。北限のサルを知るためには映像や写真だけではなく、どうしても自分の目で確かめる必要がありました。これが私の忘れ物というわけです。

下北半島に北限の二ホンザルを訪ねる



でも、いたずらに時間だけが経ってしまっていました。そんな時、知り合った横浜市野毛山動物園の飼育係の一人が毎年下北のサルの調査に参加していることを聞き、刺激を受け、誘われたこともあってようやく実現することができました。この調査は夏と冬の年2回行われています。ボランティアで参加者の多くは学生ですが、卒業後も欠かさず活動する人も珍しく無いようです。他の地域でのサルの調査（金華山や奥多摩など）も行っている人などもいてみんな経験豊富です。動物園仲間も数名いましたし、関西方面からの人も多くて心強く感じました。

下北半島には西北部の大間町、佐井村などと脇野沢村を中心とした西南部にサルが生息しています。私が参加した「下北半島のサル調査会」は主に西南部を対象としていますが、今回は西北部を調査しているグループとの下北全域の合同一斉調査と位置付けられました。

中でも、脇野沢村北部でのB群、U群の発見や確認はこの調査会の近年の成果だそうです。人に慣れていない幻のサル達へのアプローチを重点的に行う予定とされました。

A2-84群とか、A2-85群などは、一度餌づけされた群れ由来であるため、人を恐れず集落近

★調査の目的は

- (1) A2-84群、A2-85群、A-87群の個体数構成の確認および各々の個体識別の継続調査
- (2) O群を含むB群、U群の確認
- (3) 未だに発見できていない群れの有無について

※Z-2群は佐井村での調査隊との連絡を取りながら適宜調査する。

※調査期間中、調査範囲内でのタイワンザルの有無についても確認。

(下北半島のサル調査会、地元呼びかけ人・松岡史朗氏のお知らせより) 以上です。



脇野沢村は鱈と北限のサルがよく知られています。(イノシシは野生ではありません)



ブナの新炭林 新緑の頃には美しいことでしょう



サルのカウント。数とオス・メス、年齢などを調べます

くにいることが多くウォッチングすることはB群やU群などと比べればむずかしくありませんが、調査ですから群れの移動についていかなくはなりません。トラッキングです。

朝8時すぎから日没近くまでサルづけになります。サルなら簡単な山越えでも私たちは道のない急斜面をよじ登り続いてすべり落ちるように下ってサルについて行くことが求められています。その昔、「蛸田越え」といわれた九艘泊への道は2足半のワラジを履くと言われました。両手両足と額にワラジをつけて登ったというわけです。調査は5、6カ所のコースに分かれ各々3、4名のパーティで行います。今回私達はA2-84群につき、12月24日、蛸田でのカウント。蛸田から芋田方面へのサルが移動中に52頭+αでした。私達もついて行かなくてはなりません。蛸田越えになります。翌日は芋田で9時頃から観察し約1時間後サル達が移動し始めたため、沢を直登し尾根をまいて九艘泊へ出て先回りしてサルを待ちカウントしようという作戦に出ました。途中いい岩場があり、そこにサルが来ればベストショットが期待できるとのアドバイスもあって、イバラの道に前途をはばまれながらも岩の上ですべり落ちそうになりながらも、ようやく尾根の上にとどり着いたと思ったら目標の岩場のはるか上部に出てしまいました。そこはブナの新炭林で東北の山の雰囲気がありとてもいい場所でした。

ようやく私達が九艘泊に着いた頃にはすでにサルが先着して防除用ネットが巻き上げられている畑の中に入りダイコンなどを食べていました。サルを追い払おうと鉄棒などを打ちたたき音でおどかしていた人が、なぜか私達が近づくとバツが悪そうに家の中に入られたように

見えました。むしろ、のん気にサルを数えたり、写真を撮っている自分が後ろめたい気がしたのに、本来なら私達もサルを追い払わなくてはいけないのではと、複雑な心境になりました。野生動物との共生などときれい事では片付けられないことです。人との適度な距離があることが望まれますが、そういう私も目の前に人を恐れることもなく、またこびることもなく写真を撮らせてくれることに喜びを感じている自分はいぶん身勝手だと思えます。

その日の調査の結果は各組宿舎に帰ってからもまとめ、食事の後、報告します。そして翌日の希望コースを自分で選びます。私の場合3日間とも「なきごえ」の取材という個人的な言い訳もあって、A2-84群につきました。私自身は十分写真も撮れ満足いくものでしたが、幻のO群を探しているチームは深い雪の中をカンジキを付けての往復10数キロにわたるトラッキングを行っていました。結果はほとんど情報がない場合もあります。調査期間中、宿舎近くにいる2頭のハナレザル以外1回もサルを見ることがない場合もありうるわけです。

現在、下北半島には約17群732頭+αが生息していると言われています。そのうち主に脇野沢村地域にいる群れが観察しやすいだけで、他の群れが人前に姿を見せることは滅多にないようです。この調査の本当の楽しみや喜びはこのような幻のサル達を確認できた時、本来のサルの暮らしに迫ることができた時にあるのではないのでしょうか。

今回の調査の正式な報告書が楽しみです。最後に、今回の調査の参加の機会を与えて下さった松岡史朗氏、パーティ仲間、参加者の皆さんに感謝いたします。(飼育課：大野尊信)



雨が上がり、日だまりに出て来た兄弟??

今回は特別に下北半島北限のサル（ニホンザル）の冬の表情を紹介します。見るからにふっくらと暖かそうな毛並みであることが分かります。特に子供たちは着ぶくれしたようでコロコロしています。



毛色は淡く、細いということがよく分かります。



下北半島

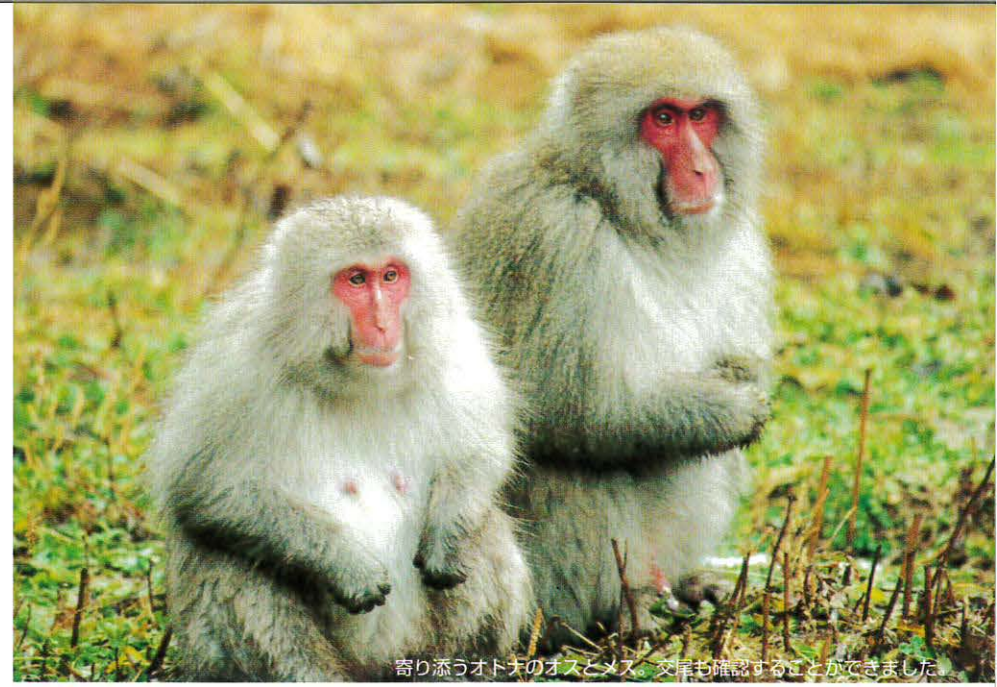
青森県

どこか角巻をした東北の女性の雰囲気を感じませんか？



雨の中、移動する母親と'99年生まれの子ども

下北のニホンザル



寄り添うオトナのオスとメス。交尾も確認することができました。



発情期のオトナのメス。さかんに声をだしてオスにアピールしていました。



ウメドキの芽を食べているようです。



採食中の群れの一部。草の芽や地下茎などを食べていました。

飼育課 大野 尊信
Text and Photographs by

「長い熊手の使い道」

ぼくは2年程前にアジアゾウの担当になりました。一般にゾウという動物は、気が優しく力持ちのように思われがちですが、実際にはやはり体が大きい分、力もちろ強く、また頭もたいへん良いため、こちらの思う通りに行かず場合によってはたいへん危険な事故を起こす、猛獣のような動物です。ですから担当になってすぐの新米の間はあまりゾウの近くまで行かずに、離れた所から作業します。しかし、ゾウに慣れていくためには、ゾウの体をブラッシングしてやったりして、コミュニケーションをとることも大切です。

私が担当になった当初、熊手の柄にさらにもう一本棒を継ぎ足して長い熊手を作り、ゾウの体をこする際、間に柵(はく)を挟んであまり近づくにブラッシングできるようにしていました。

しかし熊手は竹でできていて、ゾウにしてみればエサのようなものですが、後から継ぎ足した棒は金属でできているので、もしもゾウに熊手を取られてしまった時に竹なら食べられてもかまわないのですが、金属の棒まで食べられてはいけなく、またぼく自身慣れてきて、ある程度近くまで行ってブラッシングできるようになってきたので、いつしか「長い熊手」は使われないようになっていきました。

また、ゾウはブラッシングされるのも好きですが、夏の暑い時期などは水浴びをするのもとても好きで、よくプールの中で横になって昼寝をしたりします。時には気持ち良さのあまり、水中で小便や大便もしたりします。ゾウのうちはソフトボールより一回り大きく、水より軽いらしくプカプカ浮かびます。いつまでも放っておくとだんだんほぐれて水に溶けて、水が汚れてしまうので取らないといけません。

ここで例の「長い熊手」の登場です。金魚すくいのように熊手の先でゾウのうちを拾うのです。思わぬ所で思わぬ物が役に立つものです。

これが なかなか
むずかしい

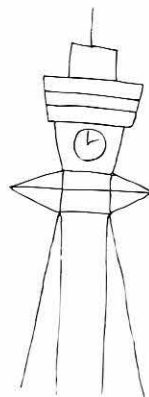


「ゾウの腹時計」

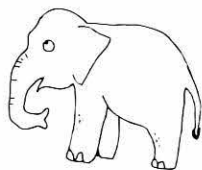
ゾウはあの大きな体から想像できるように、たいへん大食いの動物です。野生では一日のほとんどの時間を採食行動に費やしています。

天王寺動物園では朝とお昼に軽めのエサを与え、夕方、寝室に帰って来てから一番メインになるエサを与えます。そうしないとゾウ自身が空腹にならず、夕方になっても寝室に入ってくれないからです。

お昼のエサは、1時に青々とした牧草を与え、ゾウが食べている間に、うちそうじをします。たまに別の用事があり、エサを与えるのが遅れたりすると、ゾウはきっちり獣舎の扉などをたたいてエサを要求します。



実は
通天閣の時計を
見ている?



以前毎月1回、1時から3時までゾウの行動を調査し、それを一年間続けたことがありました。

行動調査する日は、12時45分頃に牧草を与え、その後1時から3時までには全くゾウを放っておいて観察しないといけません。また、冬期は寒さ対策のために米ぬかや乾草を固めたヘイクューブというエサを混ぜ合わせた練りエサを2時に与えるのですが、行動調査する日はこれも抜かないといけません。すると、それまでのんびりと落ち着いたゾウが、1時55分頃からそわそわし始め、2時をまわる頃には「なんで今日は練りエサをくれへんねん」とばかりに獣舎の扉や柵などをたたき始めます。

2時20~30分ぐらいになると、さすがにあきらめて落ち着きを取り戻しますが、エサに対する執着はかなりのものを感じられます。

食欲が旺盛なのは、健康のあかしなので良いのですが、ゾウの腹時計の正確さには感心させられます。

(文・イラスト：あぶらや けんじ)

- 12/3 ●ホッキョクグマのユキスケが死亡しました。突然の死でした。
- レッサーパンダの海海(ハイハイ)(メス)が死亡しました。ハイハイは昭和57年に中国の成都動物園で生まれ、上海市から大阪市に友好動物として贈られたものです。国内では最も高齢のレッサーパンダでした。

- 12/4 ●コンドルのオス1羽がとくしま動物園から贈られてきました。早速、オリ越しにメスとのお見合いを始めました。

- 12/5 ●日頃来園者の方が入ることのできない当園の裏側を見ていただく「動物園裏側ウォッチング」を開催しました。動物病院と餌の調理場をまわりました。

- 12/9 ●ペンギン舎の周囲にネットを設置する工事が終了したため、屋外でのペンギンの展示を再開しました。

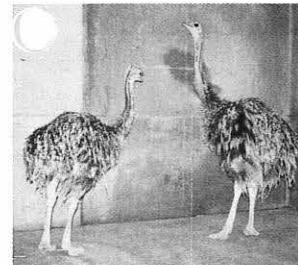


- 12/11 ●当園飼育係による動物園のおじさんのお話「ゾウさんの一日」を開催しました。

- 12/12 ●当園園長が動物を解説する「天王寺動物園長のお話～動物不思議発見～」を開催しました。鳥についてのお話でした。

- 12/18 ●11月に来園したアカカンガルーの検疫が終了したため、展示しました。

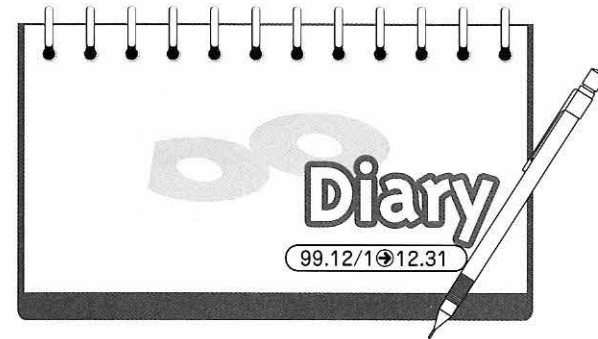
- 12/20 ●ダチョウのヒナ2羽が鹿児島市平川動物公園から贈られてきました。24日にも1羽が到着し合計で3羽が来園しました。



- オオタカのオス1羽が盛岡市動物公園から贈られてきました。昨年ふ化したばかりの若いタカです。

お知らせ

- 動物のお話
 - 3月4日(土) 動物ビデオ放映
 - 3月11日(土) サイさんの一日
 - 3月18日(土) 動物ビデオ放映
 - 3月19日(日) 天王寺動物園長のお話
 - 3月25日(土) 動物君たちの餌
- いずれも午後1時30分から
- 場所 天王寺動物園内レクチャールーム
- 参加方法 会場に来られた方、先着60名



- 12/24 ●お正月準備として、爬虫類生態館アイファアの入口にしめ縄飾りを取り付けました。



- 12/25 ●今年ふ化したニジギジ2羽とコサギ5羽を盛岡市動物公園に贈りました。

- 当園飼育係による動物園のおじさんのお話「クマさんの一日」を開催しました。

- 12/27 ●カバのメス1頭がメキシコのグアダラハラ動物園より来園しました。1歳で、まだまだ小さくかわいい盛りです。周囲の環境に慣れるのを待って、お目見えする予定です。



- 12/31 ●コンピューター2000年問題による園内施設の異常発生が心配されましたが、大きな問題は起こりませんでした。

名前募集
してまーす

クロサイの赤ちゃん
(平成11年11月11日誕生)
と、母親のサッチャン

クロサイの赤ちゃんの名前募集

- 平成12年2月中旬より公開予定
- (体調などを考慮のうえ決定するため、公開時期は変更する場合があります。)
- 募集期間 公開日～平成12年3月31日(金)必着
- 応募方法 応募用紙は、天王寺動物園の新世界ゲート付近及びサイ舎前に設置しています。なお、郵送による場合は、はがきに住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、クロサイの赤ちゃんの名前を記入の上、〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-108 大阪市天王寺動物園事務所「クロサイの赤ちゃん名前募集」係までお送り下さい。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店



子どものずかんシリーズ

① どうぶつえん

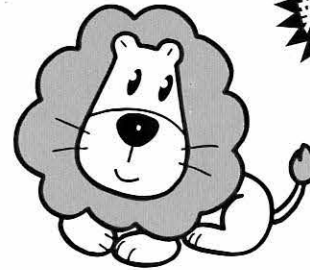
26.5×21cm 各巻定価 本体1,000円(税別)
全国学校図書館協議会選定

動物園にはいろんな動物を見ることができます。
ただ、単に見るだけではなく、その動物の特長や生態、
何を食べているか、またその仲間たちはどんなものか
があるかがこの本でわかります。さあ、この本を持って
もう一度動物園へいってみよう。

お求めは、お近くの書店で。

ひかりのくに株式会社 本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2 TEL.06-6768-1151 代表

FUJIFILM
I&I-Imaging & Information



新発売

楽しいショットを
3つのサイズで。

ADVANCED
PHOTO SYSTEM



FUJICOLOR スーパー
スリムで
APSフィルム使用

切替

撮影シーンに合わせて、
標準・ハイビジョン・パノラマのサイズを自由に切替。

- スーパースリムの手軽さにプリントサイズ選びの楽しさプラス。
- APSフィルムだからインデックスプリントも。
- 切替はファインダーも連動、見たままのフレームでパチリ。

かろうの大林

桜橋本店 ☎6341-8091
阪急三番街店 ☎6372-5031

狼と生きて

父 平岩米吉の思い出



平岩由伎子[編著] ●新刊
3,500円+税 ●限定1000部
狼と犬と猫の生態を研究し、動物文
学をはじめて世に紹介した平岩米吉
の波瀾に富んだ創造性豊かな生涯を
娘の眼から深く描く。
夏の旅の思い出、ふしぎな巡りあわ
せ、動物画家・大崎善司、日本好き
のスター博士など、名品を掲載。

平岩米吉の本

狼 その生態と歴史
2,600円+税

犬と狼
●2刷出来 2,500円+税

犬の生態
●6刷 2,000円+税

犬の行動と心理
●4刷 2,000円+税

私の犬
2,200円+税

猫の歴史と奇話
2,200円+税

動物文学 復刻版 [全10巻+補巻・索引]
174,757円+税 ●限定300部(分売不可)

南方熊楠、柳田国男、小川未明……錚々たる執筆陣が数々
の作品・論考を寄稿し発表した幻の戦時中資料。

築地書館 〒104-0045 東京都中央区築地7-4-4-201 TEL.03-3542-3731 FAX.03-3541-5799 (送料一律400円)
●ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。E-mail Address= JDH07647@niftyserve.or.jp

貸出用「楽しい天王寺動物園」
ビデオ 19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)6771-0201



マスターのポップコーン

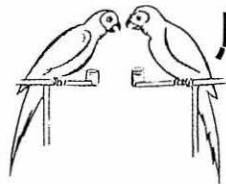


〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

〒561-0856
大阪府豊中市穂積1-10-30
(株)増田食品 TEL (06)6865-0165



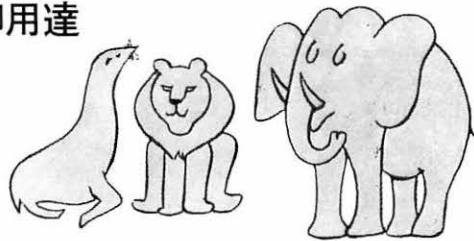
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. <コカ・コーラ指定会社>
Coca-Cola & Coke は The Coca-Cola Company の登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

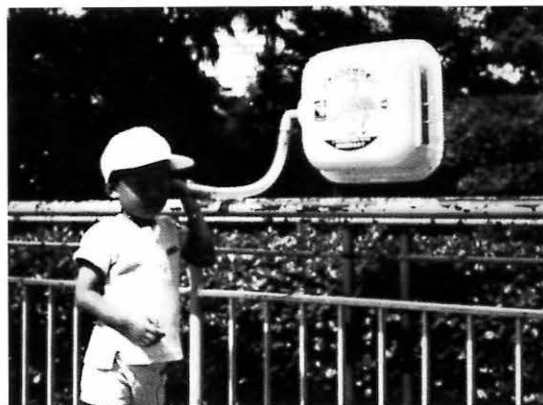


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話06-6762-2333
1回 30円

動物園内での
お食事、
ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL06-6771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL06-6771-7110



天王寺動物園 MAP



阪神高速松原線

動物園入口

- 入園料 動物園/大人500円 公園/大人150円 中学生以下、65歳以上無料
- 開園時間 午前9時30分~午後5時(入園は4時まで)
- 休園日 毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は翌日休園)

大阪市天王寺動植物公園事務所 〒543-0063大阪市天王寺区茶臼山町1-108 TEL.06-6771-8401



365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさはそのままに、カルシウムの量を600mg (成人1日あたりの所要量) までアップさせた、雪印毎日骨太。日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召上がりください。



雪印毎日骨太

300ml・100円/希望小売価格(税別)



一日、愉快地のしめる

◎園内2カ所(中央デッキ下・南園高架下)に、各種のりものがあります。



ほんとに楽しいネ!

中央デッキ下



南園高架下

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 4397-0100(代)

編集委員

中尾啓一/中川哲男/石井 等/藤田四郎/沖田紀行/山崎道正/長瀬健二郎/谷森 進/長澤英資/森本委利/高橋雅之/市川久雄
竹田正人/高見一利/満 勇二/松岡秀和/萩原祐二/坂本 全/森岡伸晃/野口秀高/大野尊信/早川 篤/西村慶太/油家謙二